

第4回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

令和元年度 第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、書面により意見等をいただく形式としました。

1. 検討結果

現時点での供給調整は行わない。今後については、経済状況等に注視しながら国有林材を供給していく必要がある、との結論となった。

2. 主な意見等

- トドマツの原木在庫は、受注の落ち込みもあり、一部地域では量的にダブつき始めている。
- カラマツの原木在庫は、地域間で差異はあるものの不足感があり、消費量が減少する中での不足感は、出材量の減少がうかがえる。
- チップ用の原材料は、依然として広葉樹のみならず、トドマツ、カラマツも不足が続いている状況。
- 米中貿易摩擦に加え新型コロナウイルスの影響による輸出の落ち込み等により、製品需要が漸減しており、原木需要が鈍化。特に、トドマツでこの傾向が強いため、場合によっては調整が必要となることも想定。
- 素材生産事業者の経営及び雇用の安定確保の観点から、素材生産量の調整による供給調整は避けるべき。丸太の備蓄的なことも必要。
- 新型コロナウイルス感染症の影響について、終息が長引き全体の消費が減少した場合、住宅産業に与える影響も大きく、これに伴い、川中・川上事業にも大きな影響が出るものと思われる。

- 新型コロナウイルスの影響により、輸入材の入荷にも影響を予想。これに伴い、国産材の需要が増えることも考えられる。
- 今後、輸入材の代替やコロナウイルスの問題終息時に、いつでも対応出来るように一定の生産、原木集荷を行っていくことが必要。
- 木質バイオマス発電では、引き続き林地未利用材の調達・使用を増やす計画。